

# 京都市 2020 年「真のワーク・ライフ・バランス」調査報告書

作成：筒井淳也（立命館大学）

## ■本報告書の位置付け

京都市では、男女共同参画行政の基礎資料として5年に一度のアンケート調査（郵送配布）を行っている。これに加えて、2020年から人々の生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症の拡大に関連する行動変化や生活状態の変化を調べるため、ネットを使ったアンケートを実施した。本報告書は、その結果の一部をまとめたものである。

本報告書では、家庭内無償労働（家事・育児・介護）への影響、働き方への影響、ライフスタイルや価値観への影響について検討する。

## ■調査概要

調査委託先：株式会社マクロミル

調査対象者：株式会社マクロミルの登録モニターのうち、京都市内在住、18歳以上の男女。

調査方法：インターネット調査

調査期間：2020年11月30日（月）～12月2日（水）

サンプルサイズ：1,000

※サンプルの割付や調査票については別途資料参照。

## ■概要

- (1) コロナ感染拡大以降、無償労働（家事・育児・介護）時間が平均的に増加したが、その増加幅は女性、特に有配偶女性でより大きく、また無償労働の負担感も女性において高い、という結果であった。
- (2) 働き方への影響は、性別や従業上の地位によって異なる。リモートワーク等の導入によって働き方が変化したことの影響は正規雇用男性において目立つが、他方で非正規雇用の女性にとっては不利な影響が示唆されている。
- (3) 暮らし・ライフスタイルと価値観の変化をみても、コロナによる外部との接触制限のために、仕事や趣味・地域活動ではなく家庭生活を重視する傾向が生じている。また、同じく接触制限により、特に女性が精神的に孤立する状況も生まれている。

## ■詳細

### (1) 無償労働（家事・育児・介護）への影響

コロナ感染拡大以降、全体的に家族の在宅時間が増加したことが各所で報告されている。京都でも、その影響で無償労働（家事・育児・介護）時間が平均的に増加したことが示されている。性別・配偶者の有無別で見た場合（表1）、どのグループでも「変わらなかった」という回答が一番多いが、「増えた」割合が「減った」割合を大幅に上回っている。特にその傾向が強いのが有配偶の女性であり、「増えた」という回答が32.5%であった。

表には掲載していないが、正規雇用の有配偶女性に限ってみると44.1%が「増えた」という回答であり、正規雇用の有配偶女性の負担が重くなっているという実態もある。また年齢階級ごとに見た場合、女性の30代において「増えた」という回答の割合が33%と、他のグループより高くなっており、子育て期にあたる女性の無償労働時間が増えた可能性が示されている。

表1 性別・配偶者の有無別、コロナによる家事・育児・介護時間の変化

		今回の新型コロナウイルス感染症拡大前に比べ、あなたの家事・育児・介護時間に変化はありましたか。【あてはまるもの1つを選択】								
		全体	かなり増えた	少し増えた	変わらなかった	少し減った	かなり減った	その他	増えた・計	減った・計
全体		1000	5.7	16.2	70.5	2.7	3.5	1.4	21.9	6.2
性別× 配偶者の有無	男性/配偶者あり	265	6.4	18.1	68.7	2.3	3.4	1.1	24.5	5.7
	男性/配偶者なし	235	2.1	10.6	75.7	3.0	5.5	3.0	12.8	8.5
	女性/配偶者あり	274	9.9	22.6	62.8	2.6	1.5	0.7	32.5	4.0
	女性/配偶者なし	226	3.5	11.9	76.5	3.1	4.0	0.9	15.5	7.1

実際の時間ではなく負担感についてみてみよう。「家事、育児や介護の負担が増えている」と回答した者の割合については、やはり女性が男性よりも高く、特に6歳未満の子どもと同居している場合、女性の32.7%（男性は14.6%）が「負担が増えている」と回答しており、性別による負担感の差が浮き彫りになっている。

特に共働き夫婦の場合、家庭内の仕事を「外注」するニーズも大きくなると考えられる。そこで、「今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、家事・育児・介護の負担軽減のため、どのような外部サービスを利用されましたか。また、今後どのような外部サービスを希望しますか」という問いへの回答をみてみよう。全体としては80.6%が「利用していない」、また79.8%が「今後も希望しない」と回答している。コロナ下において宅配サービスの利用が増えた傾向が指摘されることも多いが、少なくとも京都市においては家庭外のサービスの利用についてはどちらかといえば低調であったといえる。ただ、比較的若い年齢階級では利用の頻度・希望が若干高めであり、一定のライフステージにいる個人にとってはニーズがあるということも確かである。

## (2)働き方への影響

コロナ下において接触の抑制が社会的な要請となり、全体としてリモートワークなどの多様な働き方が進められてきている。ただ、この変化には性別などによって多少異なった傾向がある。表2にあるように、性別と配偶者の有無別に集計した場合、「変わった」という回答が最も多かったのは有配偶の男性で43.4%である。具体的な変化として比較的このグループに目立っているのはリモートワークとオンラインのミーティングの実施であった。これに対して、正規雇用やフルタイム非正規雇用の女性は、「特に変わらなかった」という回答が相対的に高いという結果であった。

表2 性別・配偶者の有無別、コロナによる働き方の変化（複数回答）

		新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたの働き方は変わりましたか。【あてはまるものすべてを選択】								
		全体	新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅勤務など会社以外での勤務を実施することになった	新型コロナウイルス感染症の影響により、時差出勤、ローテーション勤務又は短時間勤務を実施することになった	新型コロナウイルス感染症の影響により、取引先との会議等をオンラインで実施することになった	新型コロナウイルス感染症の影響により、自主的に退職した	新型コロナウイルス感染症の影響により、自主的に退職した	その他	特に変わらなかった	変わった・計
全体		1000	13.0	15.7	8.9	2.9	2.1	3.4	64.7	35.3
性別× 配偶者の有無	男性/配偶者あり	265	18.1	20.0	14.7	4.5	1.9	2.6	56.6	43.4
	男性/配偶者なし	235	11.5	12.8	5.1	2.6	1.7	1.7	69.8	30.2
	女性/配偶者あり	274	9.9	12.8	6.2	2.9	3.3	5.1	66.1	33.9
	女性/配偶者なし	226	12.4	17.3	9.3	1.3	1.3	4.0	67.3	32.7

他方で、非正規雇用については不安定化の傾向が若干目立つ。表3にあるように、男性でも女性でも非正規雇用において「自主的に退職」「会社の意向で退職」の割合が高くなっている。

表3 性別・従業上の地位別、コロナの働き方への影響

【表側1】性別×配偶者の有無 【表側2】性別×本人の就労状況		新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたの働き方は変わりましたか。【あてはまるものすべてを選択】								
		全体	新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅勤務など会社以外での勤務を実施することになった	新型コロナウイルス感染症の影響により、時差出勤、ローテーション勤務又は短時間勤務を実施することになった	新型コロナウイルス感染症の影響により、取引先との会議等をオンラインで実施することになった	新型コロナウイルス感染症の影響により、自主的に退職した	新型コロナウイルス感染症の影響により、会社の意向で退職した	その他	特に変わらなかった	変わった・計
全体		1000	13.0	15.7	8.9	2.9	2.1	3.4	64.7	35.3
全体	男性/正規雇用	227	21.1	24.7	14.5	3.1	1.3	0.4	55.9	44.1
	男性/非正規雇用・計	81	12.3	19.8	7.4	4.9	2.5	3.7	58.0	42.0
	男性/非正規雇用(フルタイム)	52	11.5	19.2	9.6	5.8	0.0	1.9	59.6	40.4
	男性/非正規雇用(パートタイム)	29	13.8	20.7	3.4	3.4	6.9	6.9	55.2	44.8
	男性/その他の仕事	73	6.8	11.0	13.7	2.7	1.4	1.4	68.5	31.5
	男性/専業主夫・無職・学生	119	10.1	2.5	1.7	4.2	2.5	5.0	75.6	24.4
	女性/正規雇用	147	21.8	23.8	15.0	2.0	0.7	2.7	58.5	41.5
	女性/非正規雇用・計	154	7.1	21.4	6.5	1.3	5.2	5.2	58.4	41.6
	女性/非正規雇用(フルタイム)	73	12.3	27.4	11.0	1.4	6.8	2.7	46.6	53.4
	女性/非正規雇用(パートタイム)	81	2.5	16.0	2.5	1.2	3.7	7.4	69.1	30.9
女性/その他の仕事	34	11.8	8.8	11.8	2.9	0.0	2.9	64.7	35.3	
女性/専業主婦・無職・学生	165	4.8	1.8	1.2	3.0	1.8	6.1	81.8	18.2	
全体		265	18.1	20.0	14.7	4.5	1.9	2.6	56.6	43.4

暮らしの満足度の変化をみても、満足度が「減った」という回答の割合は、女性の非正規で41.6%（正規で29.3%）、男性の非正規で34.6%（正規で24.3%）となっており、非正規雇用の人の生活の苦しさがみえてくる。

その他注目すべき結果としては、コロナ下において働き方の変化がみられるなかで、働き方を変えにくい仕事をしている層の存在である。「あなたは、今後、在宅勤務や時差出勤等を希望しますか」という問いについて、「そもそも仕事（医療・福祉、農業、小売・販売、公共交通機関など）の性質上できない」と回答したのは、女性の正規雇用において割合が最も高く、40.8%であった。国の行政においても、いわゆるエッセンシャルワーカーの問題が指摘されているが、京都市においても女性の働き方が不自由を強いられている現状が浮かび上がった。

### (3)暮らし・ライフスタイルと価値観の変化

コロナ下において全体的に外出機会が抑制されるなか、ライフスタイルや価値観の変化も一定程度みられた。「今回の新型コロナウイルス感染症拡大前に比べ、あなたの仕事、家庭生活、趣味の活動・地域活動への意識に変化はありましたか」という問いに対して、全体で33.7%の人が「変化した」と回答している。細かく見ると、「家庭生活を重視するように変化した」という回答が20.5%で最も多い（表4）。この傾向は有配偶者において高い。また、在宅勤務や会社以外での勤務を実施した人に限ると36.2%の人が同様の回答を与えていることから、働き方の変化が家庭重視の傾向を引き出している可能性が示唆される。

表4 性別・配偶者の有無別、コロナによる生活の重点の変化

		今回の新型コロナウイルス感染症拡大前に比べ、あなたの仕事、家庭生活、趣味の活動・地域活動への意識に変化はありましたか。【最も変化したものを1つ選択】							
		全体	仕事を重視するように変化した	家庭生活を重視するように変化した	趣味・地域活動を重視するように変化した	変わらない	わからない	その他	変化した・計
全体		1000	2.7	20.5	10.5	55.4	10.5	0.4	33.7
性別×配偶者の有無	男性/配偶者あり	265	3.4	24.5	11.7	55.1	5.3	0.0	39.6
	男性/配偶者なし	235	2.6	11.5	14.5	57.4	13.6	0.4	28.5
	女性/配偶者あり	274	2.2	28.1	8.0	51.1	10.2	0.4	38.3
	女性/配偶者なし	226	2.7	15.9	8.0	58.8	13.7	0.9	26.5

また、表は掲載しないが、「仕事」「家庭生活」「趣味・地域活動」のなかで「最も満足度が増えたもの／減ったもの」は何か、という問いへの回答を見ると、全体的に「家庭生活」の満足度が高まる一方で（特に有配偶者）、「仕事」「趣味・地域活動」の満足度が減ったという回答が比較的多く、コロナ下の自粛生活が家庭外の活動に対する満足度の低下につながった可能性がある。

これと関連するが、家庭外との接触の制限によって「健康や精神的に不安（孤立感など）を感じている」と回答した者が女性において目立っている（表 5）。女性は男性と比べると、メンタルなサポートを家族外の友人等から得る傾向があり、これがコロナによる接触制限によって抑制された結果、孤立感を感じる者の多さにつながっていると考えられる。

表 5 性別・配偶者の有無別、コロナによる暮らしの変化

		今回の新型コロナウイルス感染症拡大前に比べ、現在、あなたの暮らしにどのような変化がありますか。【あてはまるものすべてを選択】									
		全体	収入が大きく減っている	出費が大きく増えている	外出自粛等により、健康や精神面に不安（孤立感など）を感じている	家事、育児や介護の負担が増えている	ささいなことでも配偶者・パートナーとけんかをすようになる	その他（※）※プラスの変化がある場合も、その他欄にその内容を記入してください。	わからない	変化はない	変化がある・計
全体		1000	22.2	15.4	26.3	7.6	4.3	3.0	5.9	39.9	54.2
性別× 配偶者の有無	男性/配偶者あり	265	20.8	14.7	21.9	9.1	7.2	1.5	4.9	44.5	50.6
	男性/配偶者なし	235	26.4	14.9	20.0	1.7	0.0	2.6	8.1	43.8	48.1
	女性/配偶者あり	274	20.4	19.3	30.3	13.9	8.8	4.7	4.4	35.8	59.9
	女性/配偶者なし	226	21.7	11.9	33.2	4.4	0.0	3.1	6.6	35.4	58.0